

日本での学びをスリランカの未来へ生かしたい



◆略歴◆

- 1992年 スリランカ コロンボ生まれ
- 2013年 コロンボ大学 入学
- 2017年 専門学校にて建築の資格を取得
- 2019年 コロンボ大学 卒業
- 2020年 NLP（神経言語プログラミング）講座受講
- 2021年 倉敷芸術科学大学 留学生別科 入学
- 2022年 来日
- 2023年 倉敷芸術科学大学 留学生別科 卒業、倉敷芸術科学大学大学院人間文化研究科博士前期課程 入学

ウヤン ハーワーゲー ミヌラ
ギトウマル ジナダーサ

公益財団法人 守屋留学生交流協会
第11回倉敷市守屋奨学生

そのような父を見て育つなかで、日本に関心をいだくようになり、なかでも映画がきっかけで、武士と忍者の文化について興味を持つようになりました。

そのほかにも、幼少期から、日本の歴史を学び、文化について深く理解したいと願っていました。しかし、スリランカで学べる日本の歴史は、第二次世界大戦に関することに限定されていました。何かを学ぶ最良の方法は、その場所に行つて学ぶことだと思い、日本への留学を決意しました。スリランカのコロナボ大学で学士号を取得した後、留学前にまずは世界について見識を広げ、他者と協力して何かを成し遂げる経験が必要であると感じ、大学に行きながら取得した建築の資格を生かして、設計の仕事を始めました。

その後、2021年に倉敷芸術科学大学の日本語プログラムに応募しました。新型コロナウィルスの大流行のため、来日が一年遅れましたが、2022年から日本で学べるようになりました。留学生別科では、日本文化と日本語に触れること

ができました。日本文化のなかで最も難しかったのは尊敬語や丁寧語を話すことです。接客のアルバイトを始めた頃は、相手に応じた適切な表現を使うことが難しかったのですが、徐々に慣れ、今では尊敬語や丁寧語も使い分けられることができます。

◆スリランカと私の故郷◆

私がスリランカ出身であると言うと、多くの場合、「スリランカってどこにあるの?」と尋ねられます。一方で、紅茶の産地として知っている人も多いでしょう。イメージの通り、スリランカの人々はよく紅茶を飲みます。

スリランカは、日本の約6分の1、北海道の約80%の小さな島です。一年中暖かい気候ですが、中央部の山々の頂上周辺は涼しく、暮らしやすい環境です。スリランカは紅茶だけでなく、世界遺産の一つであるシギリヤロック、シナモンや美しいビーチでも有名です。スリランカ料理には辛いものと甘いものがあります。最も人気のある料理は「コットゥ」です。これは、小麦粉や卵、野菜、





コットウ (筆者撮影)



スリランカの国旗

肉などをみじん切りにして和え、油で揚げたもので、外食の際によく食べます。また、誕生日や結婚式、正月など、特別な日には「ミルクライス」を食べます。これは、ココナッツミルクに米を加えたものです。味付けはさまざまですが、香辛料を入れ、辛くして食べるのが好まれます。

スリランカには約2500年の歴史があり、紀元前483年に、シンハラ王朝が建設されたことから始まりました。考古学的な発見から、約12万5千年前から先住民がスリランカの地に住んでいたともいわれています。

スリランカの人々の大多数は仏教徒であり、シンハラ語を話します。スリランカで使われている主な言語はシンハラ語、タミル語、英語です。

スリランカの国旗は茶、黄、オレンジ、緑の4色で構成され、それぞれの色は仏教(黄)、ヒンドゥー教(オレンジ)、イスラム教(緑)を表し、民族・宗教の融和を象徴しています。また、右側には、ポー(菩提樹)の葉と剣を持つ獅子が描かれており、4枚のポーの葉は、仏陀の教えをそれぞれ表しているといわれています。剣を持つ獅子は、最初のシンハラ王がライオンの子孫であるという建国神話に基づくものです。スリランカ人が獅子のように勇敢で自信に満ちていることを示し

ているという説もあります。

私は、発展途上の小さな町であるワリヤポラに住んでいました。ワリヤポラとは、航空機が駐機された場所を意味する興味深い名前です。この町は、インドの叙事詩『ラーマヤナ』に登場するラーヴァナという王の支配下にあつたといわれています。その王が「ダドゥモナラヤ」という名前の24の航空機を持っており、それを使用してスリランカだけでなく、当時、世界の9つの国を支配していたという言い伝えがあります。ワリヤポラには美しい自然と湖、田園風景が広がり、また自然災害が少ないこともあって、住むには安全な場所です。町の周りには多くの仏教寺院もあります。

スリランカでは中学・高校・大学に進学する前にそれぞれ試験があり、よい成績を取れば学費が無料の国立の学校に進学でき、大学卒業後の就職先の選択肢が広がります。そのため、よい成績を取ろうと多くの子どもたちが小学生の頃から塾に通い始めます。また、スリランカでは1月から新学期が始まりますが、入学式があるのは小学校と大学だけで、ここは日本との大きな違いです。



シギリヤロック (筆者撮影) 世界の遺産の一つである。平地から200mもの高さになる岩山の頂上に築かれた宮殿の跡が、スリランカの人々にとっては身近な場所として親しまれている。

◆大学院での研究について◆

日本は世界で最も高度な社会・経済システムを持つ国の一つですが、現在のように文化的・経済的發展を遂げるには、さまざまなリスクに直面し、それら乗り越えてきた歴史があります。

スリランカという発展途上国の国民として最も重要なのは、かつての日本人がどのような困難を乗り越えて現在のような発展を遂げたかを学び、スリランカの発展のために貢献することだと思っています。そのため、私は修士課程において、日本人がこれまでに経験したリスクと対処法について研究したいと考えています。このトピックを選んだ理由は、かつて武士や平民であつた多くの人々が、明治時代以降、工場労働者や会社社員、経営者などの職業を選択し、それに伴って生活様式を変えていったこと、さらにその後、第二次世界大戦において多くの国民を失うという悲惨な戦後から今日のような経済發展を遂げた背景に、強い関心を持ったからです。現在は指導教官と相談しながらテーマを絞り込んでいくところですが、特に、バブル經濟の崩壊後、日本の人々はどういうにして經濟を回復させてきたのか、また近年は人工知能の導入により、日本企業がどのような影響を受けているのかについて研究し、修士論文を書きたいと考えています。

研究を通して、日本が今後さらなる發展を遂げるためにはどのようなことを歴史に学べばよいのかを明らかにし、さらにそれらの知識をスリランカのような發展途上国に応用することで、日本とスリランカの未来に貢献したいと考えています。